(2) 自然環境

1) 地形、地質

嶺北地域では、造山活動による隆起地形が広く分布しているのに対して、嶺南地域では、若狭湾の陥没による沈降地形の特色を示しています。

また、本県の地質は飛騨片麻岩類と古生代以降の各地質時代の地層から構成されており、北陸の他地域に比べて比較的豊かな地史的内容となっています。

なお、化石産地は、主として嶺北地域に散在しています。

このように特色ある本県の地形、地質において、学術的、景観的にすぐれているものは、特に「みどりのデータ・バンク（昭和60年）」〝特異な地形・地質〟、〝すぐれた景観〟として整理されています。

（巻末資料参照）

一方、火山岩からつくられたみごとな柱状節理がみられる東尋坊では、約19,000㎡を園地化する環境整備事業が昭和52年度より実施され、特異な地形や景観にふれあえる快適な環境づくりが行われました。

また、歩道の縁石や公園内の石垣に笏谷石を用いるなど、本県では自然性や風土性にすぐれた地形、地質をアメニティ資源として利用している事例がみられます。

今後、これらのすぐれた地形、地質の保全と活用を図っていくとともに、ふれあいの場の創造を進めていくことが必要です。



東尋坊環境整備事業

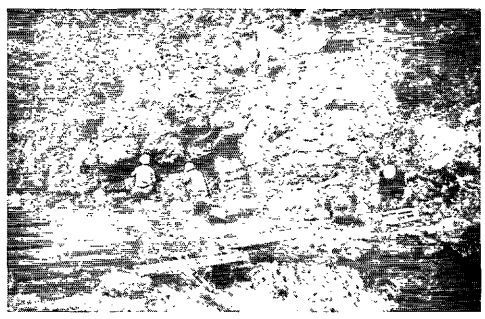
アメニティ・トピックス

〈恐竜のまち構想〉

勝山市北谷町の杉山川沿いの岩壁では、「日本で初めて」のタイトルがつく恐竜化石が、平成元年より相次いで見つかっています。

同市のように、複数の恐竜化石が大量に発見された例はなく、文字通り日本一の恐竜の里として知られるようになっています。

また、同市では恐竜を素材とした地域のイメージ・アップを図ろうと『恐竜のまち構想』が検討されており、自然とふれあえるアメニティ資源としての有効な利用をすすめています。



2）山　　岳

本県には、岐阜県境に広く連なる越美山地や石川県境にそびえる白山火山地をはじめとして、加越山地、越前中央山地、丹生山地、南条山地、野坂山地、三遠山地、若丹山地、青葉火山地など、多くの山地があり、県土の75％が森林となっています。特に、奥越地方の山々は自然環境にすぐれており、県土面積の9.2％に相当する38,445haが白山国立公園と奥越高原県立自然公園に指定されています。

これらの山々は、古くから林業などの生産活動の場として利用されてきましたが、遠景の緑や地域のシンボルとして、郷土性や季節感を育む資源として、あるいは豊かな自然とのふれあいの場としても親しまれています。

今後、林業の活性化や山村の振興を進める中で、緑のオーナー制度や分収育林制度などを活用した山々の保全を図るとともに、レクリェーション需要の多様化に対応した自然環境享受型のリゾート開発の推進や、季節感のある里山づくりなどの多彩なふれあいの場づくりを進めていくことが必要です。



シンボルとなっている若狭富士(青葉山)



シンボルとなっている越前富士(日野山)

アメニティ・トピックス

〈森林浴の森100選〉

自然との共生を目指す緑の文明学会と緑の文明総合研究所は環境庁、林野庁、建設省、日本新聞協会の協力により、全国公募の中から「森林浴の森100選」を昭和61年4月に選定しています。

その中で、本県においては『九頭竜国民休養地』と『八ケ峰自然休養村』が選ばれています。

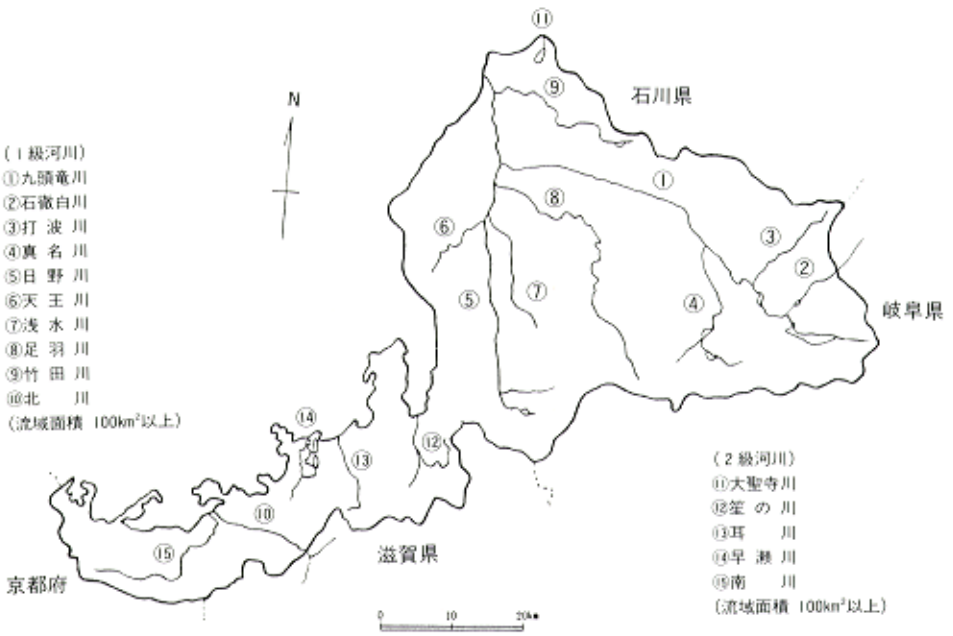
森林浴は、木々の発散するテルペン等の揮発物質（フィトンチッド）を浴びることや、四季折々の景観や野鳥の鳴き声等の影響によって健康が培われるなどの効用があり、近年注目されています。



九頭竜国民休養地

3）河　　川

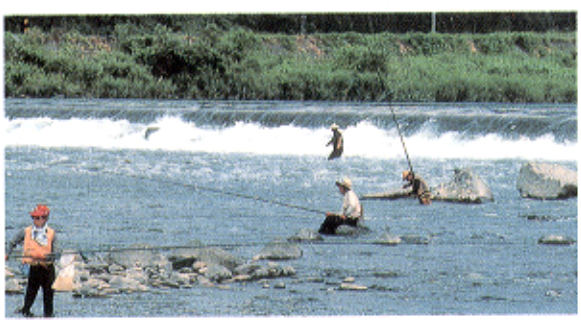
本県は、一般河川157（流路総延長1,094.714km）、二級河川39（流路総延長247.674km）を有し、豊かな水の流れに恵まれています。（平成２年３月末現在）



福井県主要河川図

このような本県の河川は、古来より農耕用の水資源として、また、河川水運の交通路として人々の生活に関わってきました。現在では、上水道、工業、灌漑、漁業、電力などの資源として広く利用されていると同時に、県内外から多くのアユ釣り客が訪れ、観光レクリェーションの場ともなっています。

また、地形と一体となった独特の河川景観や、都市の数少ない広々とした自然空間は、地域のシンボル、水とのふれあいの場となり、アメニティ資源として人々にうるおいとやすらぎを与えています。近年では、これらの河川空間を活用した河川高水敷の公園化、親水護岸化や堤防等の緑化が県内各河川で進められるとともに、いかだ流しなどの水とふれあうイベントも催されるようになっています。



九頭竜川でのアユ釣り（上志比村）



九頭竜川いかだ流し（松岡町）

しかしながら、一方では、人々の身近な生活の場にある中小河川は、コンクリート護岸等により親水性が失われています。また、都市河川は、依然として水質汚濁が改善されず、農村部の河川も水辺にゴミや空き缶が目立ち、河川景観をそこねています。

このようなことから、近年では、水辺の機能が再認識され、河川環境の保全と利用計画（河川環境管理基本計画）の策定や親水護岸などの工夫が一部の地域で進められています。また、コイの放流を通じて、水質浄化への関心を高めようとする地域住民の自主的取り組みも、敦賀市の二夜の川や鯖江市の弁天川など、各地で展開されています。

この他、人々の身近な生活の場となっている小川や湧水は、地域のシンボル、コミュニティ形成の場として、貴重なアメニティ資源であり、その保全を図るとともに、名水公園や共同洗い場として活用していく必要があります。

アメニティ・トピックス

〈全国名水百選〉

環境庁は、昭和59年に全国名水百選を認定しています。これは、古くから名水として引き継がれており、地域住民等によって、その水環境の保全が図られているものの中から、優良な湧水や河川を100ケ所選定したものです。

●大野市のお清水（湧水）



大野市は、非常に地下水の豊富なまちですが、その中で「お清水」は、1年を通して12～14度の湧き水が出ており、飲料水としてだけでなく、野菜の洗い場、洗濯の場、市民の憩いの場として利用されています。また、観光名所ともなっており、昭和63年には、洗い場が新装されています。

●上中町の瓜割の滝（湧水）



上中町は、嶺南地域のほぼ中央に位置した自然美豊かな地域ですが、その中で天徳寺の寺領内にある「瓜割の滝」は、その湧き水の冷たさや清冽さで有名であり、また、名水歴史公園として整備されています。

〝瓜割〟の名称については、ある時、瓜を冷やしたところ、水の冷たさによって瓜が割れたという古事からといわれています。

●小浜市の鵜の瀬（河川）



小浜市遠敷川沿いの鵜の瀬では、毎年3月2日にお水送りという行事が行われています。これは、奈良二月堂のお水取りの香水用に、鵜の瀬の水を送るものであり、1200年以上も続けられている伝統ある行事です。

なお、その昔、鵜の群れがこの地で遊んでいたことから、この地名がつけられています。